

南フロリダ大学訪問を終えて

岐阜大学医学部附属病院 消化器外科 藤林勢世

2024年1月末、アメリカ合衆国フロリダ州タンパに位置する南フロリダ大学（University of South Florida, USF）への表敬訪問、先進医療学習とシミュレーションの大規模施設である「Center for Advanced Medical Learning and Simulation (CAMLs)」とのMOU締結等を目的とした海外派遣に吉田和弘学長の補佐として同行させていただきました。

移動と初日

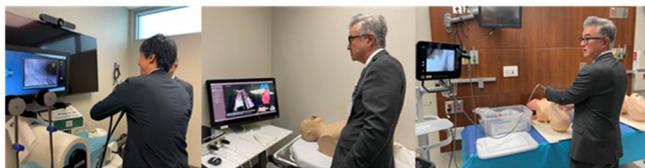
1月27日、羽田空港からヒューストン経由でタンパへと向かい、約14時間の飛行機移動を経て現地に到着しました。タンパの1月は暖かく、空は晴れ渡っており、とても気分が良かったことを覚えています。USF Health InternationalのAssistant Vice PresidentであるDr. Lynette MenezesやUSFスタッフのMr. Jesse Casanovaらとカフェで歓談し、岐阜大学とUSFの今後の協力関係について意見交換を行いました。夕方にはHonors Collegeの酒井敦子教授とお食事をご一緒させていただき、日本とアメリカの生活や医療システムの違い、そして学生の学びに対する姿勢など、国際的な視点での興味深い話題が次々と挙がり、訪問の初日から有意義な時間を過ごすことができました。

タンパ観光と文化体験

1月28日は、大学訪問前のフリー日として、USFのDr. Haru Okuda（CEO, USF Health Center for Advanced Medical Learning and Simulation）らとタンパ観光に出かけました。非常に心地よい気候の中、まず市内のレストランでランチを楽しみ、その後、タンパ湾に位置するセント・ピーターズバーグにあるダリ美術館を訪れ、サルバドール・ダリの作品を鑑賞しました。夕食にはタンパの地元料理を味わう機会があり、アメリカ南部の風味を楽しみながら、和やかなひとときを過ごしました。



医学部エリアの訪問とシミュレーション施設の見学



1月29日には、医療シミュレーション教育において世界的な最先端施設である「Center for Advanced Medical Learning and Simulation (CAMLS)」を訪問しました。Dr. Okuda との会談の後、岐阜大学とUSFの間でMOUの締結が行われ、両大学の将来の連携に向けた重要な一歩となりました。CAMLSは非常に大きい施設で、ERや消化器、産婦人科領域といった幅広い分野の精緻なシミュレーション

器具が集約されていました。人体模型にエコーをあてると、エコープローブを動かすごとに画面に臓器名が表示され、実臨床では学びにくい部分も補完されるようになっていました。スキルアップには練習が必要ですが、実臨床は常に本番であり、患者への配慮も必要となります。このような環境は特殊な領域である医療において効率的なスキルアップのために非常に意義があるように思いました。



医学部、病院施設、工学部および研究施設の見学

続く数日間にわたり、USF の様々な施設を見学しました。Tampa General Hospital では、ICU 病床が非常に多く日本の医療体制との違いを感じました。また、消化器外科手術の一環として減量手術を見学し、日本とアメリカでの疾病の特徴や治療方針の違いについて意見交換を行うこともできました。このほか、Byrd Alzheimer's Center では神経変性疾患に関する研究についての交流も行われました。また、工学部ではロボティクス研究施設を訪問し、普段関わる機会の少ない分野の技術進展やその応用の可能性についても理解を深めることができました。



学生施設の見学

Honors College という学生施設や保健センターや食堂、スポーツジムなども訪問し、学生生活の一端を垣間見ることができました。いずれの施設も規模が大きく、学生たちが積極的に利用している様子が印象的でした。また、USF と岐阜大学との間で今後の学生交流の拡大についても話し合いを行い、教育分野での国際連携が学生の学びや将来の成長において非常に意義深いものであることを改めて実感しました。



最後に

今回、USF と岐阜大学の交流の機会に関われたことを大変嬉しく思います。出発前は緊張しておりましたが、USF の先生方、スタッフの方々には手厚く歓迎していただき非常に快適な環境で過ごすことができました。施設の見学だけでなく、実際にUSFの方々との交流ができたことも貴重な経験となりました。また自分が見学中に体調を崩してしまった時には吉田学長や同行の先生方に優しくサポートしていただき無事復帰することができ非常に感謝しております。

今後も両大学の交流を通じて共に発展していけることを期待します。このような大変素晴

らしい機会をいただきありがとうございました。